

【基本理念】 地域を支える、稼げる林業

【計画期間】 令和7年度～令和11年度

【数値目標】 県産材生産量※1 (R5) 239千m³ → (R11) 270千m³
(林業による木材生産量: 208千m³ → 250千m³)
林業生産額※2 (R5) 28億円 → (R11) 32億円

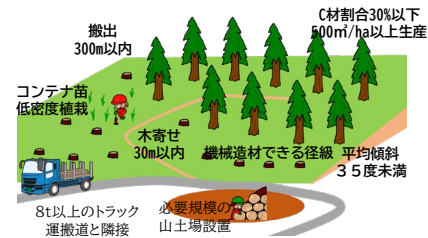
※1: 公共工事等で発生した支障木を加算した総生産量
※2: ※1の総生産額に特用林産生産額を加算した額

I. Fukui Forest Design 推進プロジェクト

I. 大きな林業（ふくい型林業経営モデル）の推進

1. 効率的な主伐・再造林・保育の推進

- (1) 主伐地の集約化によりふくい型林業経営モデルを面的に展開
- (2) 必要な県産種苗の安定供給体制の構築
- (3) 新たな技術や手法を活用した林業経営の推進



（ふくい型林業経営モデルのイメージ）

2. 担い手の確保・育成の推進

- (1) 主伐、再造林等を担う人材の確保・育成
- (2) 雇用環境の改善および労働安全対策の強化

II. 小さな林業（自伐型林業と副業）の推進

- (1) 都市部からの移住・定住や自伐型林業団体設立等の促進
- (2) 稼げる半林半Xのモデルづくり

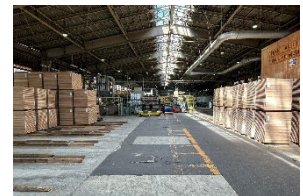


（自伐型林業大学校の開校）

III. 県産材の需要拡大

1. B材工場の誘致等による県産材の需要拡大

- (1) B材工場の誘致
- (2) 原木の価値に応じた製品を生産
- (3) 意欲的な製材事業者等の連携による都市圏や海外での販路の開拓
- (4) 住宅、公共・民間施設などの非住宅での県産材の利用推進
- (5) 木質バイオマスの利用推進



（B材工場誘致（イメージ））

2. 需要に的確に対応できる合理的な流通体制の構築

- (1) 県産材の需給調整を統括するシステム等を構築
- (2) 意欲ある製材事業者の育成

3. 県産材利用の理解を深めるふくいの木運動の継続

- (1) みんなでつかおう「ふくいの木」運動の展開
- (2) 企業を対象とした勉強会等の開催



（フクモクフェスの開催）

II. 森を「守り」「活かし」「慈しむ」推進プロジェクト

I. 山地防災力の強化に向けた治山事業等の推進

- (1) ICT技術を活用した森林土木工事の推進
- (2) 大規模災害時の対応に向けた体制づくり
- (3) 防災・減災・国土強靱化に向けた事業の推進

III. 特用林産物の生産振興および地域資源を活用した新たな森林ビジネスの展開

- (1) 新規生産者の開拓と栽培技術・生産量の向上（香福茸）
- (2) 林業遺産や地域特産品の振興
- (3) 山村地域の資源を活用した新たな森林ビジネスの展開

II. 公益的機能を最大限に発揮する森づくりの推進

- (1) 自然の力を活かした多様な森づくりを推進
- (2) 獣害や病虫害に強い森づくりを強化

IV. 全国育樹祭の開催理念を承継した緑と花の県民運動の永続的な展開

- (1) 緑と花の県民運動の推進に加え「木を伐って使い、植え育てる」機運を社会全体に浸透
- (2) ふくいの自然や木の良さを伝え、触れ合える機会を創出



（香福茸新規生産者向け研修会の開催）